

取扱説明書

この度は、製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。製品を安全、快適にご使用いただくための大切な内容が記載されております。ご使用前に必ずお読みください。なお、保証書も掲載致しておりますので、大切に保管してください。

NCT-FS リジッド(固定)／フォールディング(折りたたみ)

NCT-VS フォールディング(折りたたみ)

NCT-AS 各モデル

NCT-AS Light リジッド(固定)／フォールディング(折りたたみ)

NCT-AS Urban リジッド(固定)／フォールディング(折りたたみ)

NCT-AS Shock absorber リジッド(固定)

NCT-MS 各モデル

NCT-MS UP フォールディング(折りたたみ)

NCT-MS Urban フォールディング(折りたたみ)

NCT-MS SW フォールディング(折りたたみ)

NCT-PRO 各モデル

NCT-PRO UP フォールディング(折りたたみ)

NCT-PRO Urban フォールディング(折りたたみ)

NCT-PRO SW フォールディング(折りたたみ)



PHOTO／NCT-FS フォールディング
オプション仕様

■NCT-PROでは、電動走行ユニットの取扱説明書も、本書とあわせてお読みいただき、記載の取扱方法をおまもりください。

各部の名称



※ご注文時に選択した製品の仕様により、上記のうちの一部のパーツがついていない場合もあります。

車いすのひろげかた ※リジッド(固定)タイプを除く

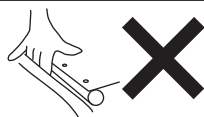
- 1** 手押しハンドルもしくはメインフレームを持って軽く左右に揺らしてださい。



- 2** 左右どちらか一方の座面下のパイプ部を下の方向に押し下げます。座面下のパイプが受けに収まるまで押し下げてください。

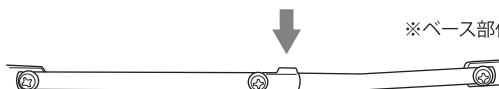


注意



押し下げる際、座面パイプの下側や横側に手や指を入れないでください。危険です。

- 3** ベース部に中折れ補強(幅止め)がついている仕様の場合は、中折れ補強を上から手で押してまっすぐに伸ばします。



※ベース部付近の図です。

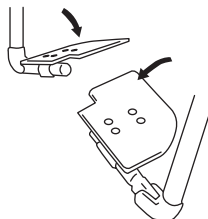
※ベース部に中折れ補強がついていない仕様の場合は、この作業は必要ありません。



注意

中折れ補強を押す際に、中折れ補強パーツの隙間に手や指を挟まないように、十分に注意してください。

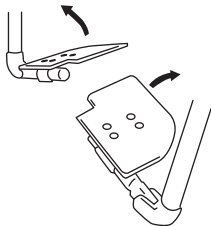
- 4** フットサポートが両側跳ね上げ式の場合は、フットサポートプレートを下方へ回転させるようにセットします。使用者が車いすに座ってから行うのが一般的です。



車いすの折りたたみかた ※リジッド(固定)タイプを除く

1

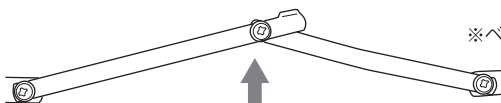
フットサポートが両側跳ね上げ式の場合は、フットサポートプレートを上方へ回転させて収納します。



※フットサポートが中折れ式もしくはの片折れ式の場合は、この作業は必要ありません。

2

ベース部に中折れ補強(幅止め)がついている仕様の場合は、中折れ補強を下から手で押して、折り曲げます。



※ベース部付近の図です。

※ベース部に中折れ補強がついていない仕様の場合は、この作業は必要ありません。



注意

中折れ補強を押す際に、中折れ補強パーツの隙間に手や指を挟まないように、十分に注意してください。

3

座面シート上の前方にある折りたたみ用ベルトをゆっくりと持ち上げると、フレームが折りたたまれます。



駆動輪の操作のしかた



ハンドリム(駆動輪外側のパイプ)

- 搭乗者がハンドリムを握り、ハンドリムを前に押したり、後ろへ引いたりすることで、前進又は後退します。
- 走行中にブレーキをかけるには、ハンドリムを握って駆動輪を止めます。



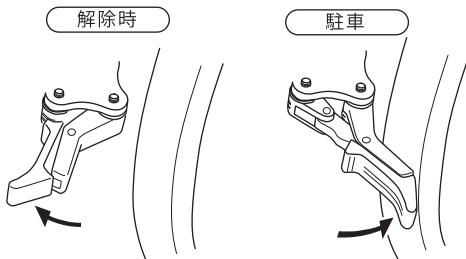
注意

タイヤを握って漕ぐと、ブレーキやフレーム、アームサポート等の間で指を挟むことがありますので注意してください。

駐車ブレーキのかけかた

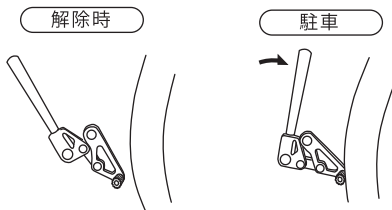
NCTブレーキ仕様の場合

- レバー先端を手で後方へ引くと、ブレーキシューが駆動輪のタイヤを押さえてロックし、ブレーキがかかります。レバーを前方に戻すとブレーキが解除されます。



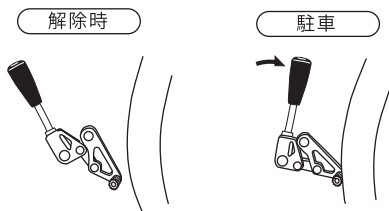
PD4ブレーキ仕様の場合

- レバー先端を手で後方に引くと駐車ブレーキがかかります。レバーを戻した状態が解除です。



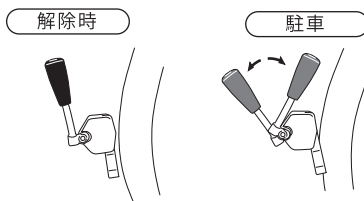
PDAブレーキ仕様の場合

- レバー先端を手で後方に引くと駐車ブレーキがかかります。レバーを戻した状態が解除です。



PPSブレーキ仕様の場合

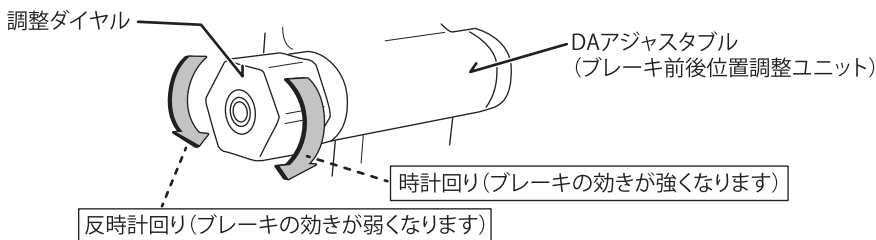
- レバー先端のノブを手で前方に押す、もしくは後方に引くと駐車ブレーキがかかります。レバーを戻した状態が解除です。



- しっかりブレーキをかけていても、乗降時などに、横から強い力が加わると車いすは簡単に動いてしまいますので、十分注意してください。
- 坂の途中では駐車しないでください。やむを得ず駐車する場合は2輪以上に車止めをしてください。
- ブレーキレバーに体重をあずけたり、足でレバー操作するなど、レバーに強い力がかかる行為はしないでください。
- レバー操作は、ブレーキシューやタイヤに手指があたらないように注意しながら、ずずかに行ってください。

ブレーキ前後位置調整ユニットによる駐車ブレーキの調整のしかた(オプション)

※DAアジャスタブル(オプション) 選択仕様の場合のみ



駐車ブレーキの上方に装備されているDAアジャスタブルの六角形の調整ダイヤルを指でつまんで回すことで、駐車ブレーキが前後に移動します。

- 調整ダイヤルを時計回りに回すと、駐車ブレーキが駆動輪タイヤに近づき、ブレーキの効きが強くなります。
- 調整ダイヤルを反時計回りに回すと、駐車ブレーキが駆動輪タイヤから離れ、ブレーキの効きが弱くなります。



注意 警告

調整後は、左右両側とも正常に駐車ブレーキの操作ができ、しっかりと駐車ブレーキで駆動輪をロックできることを確認してください。

介助ブレーキのかけかた(オプション)

※NCT-MSの介助ブレーキつき仕様の場合のみ



左右の介助ブレーキレバーを同時に握ると介助ブレーキがかかります。



禁止

介助ブレーキは、駐車ブレーキとして使用することはできません。駐車目的では使用しないでください。

※NCT-PROで電動走行ユニットのオプション介助ブレーキを装着している場合は、電動走行ユニットの取扱説明書でご確認ください。

アームサポートの跳ね上げのしかた・戻し方(オプション)

※アームサポート跳ね上げ式仕様の場合のみ

跳ね上げのしかた



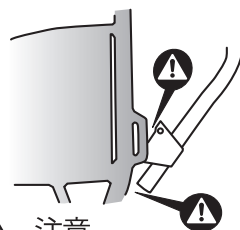
アームサポートを持ち、上に回転させるように上げてください。

戻しかた



戻すときは、アームサポートをゆっくりと押し下げてください。

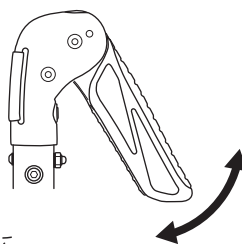
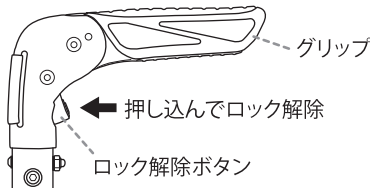
手指をはさまないように注意！



注意 警告

アームサポートパーツとフレームの隙間に手指を入れないでください。
アームサポートに力加わり動いてしまった場合にケガをするおそれがあります。

フォールディンググリップ(オプション)の折りたたみかた、戻しかた



- ロック解除ボタンを指で押し込むと、グリップを下方に折りたたむことができます。
- 戻すときはグリップを手で上方に上げます。
ロック解除ボタンが飛び出してグリップがロックされるまでグリップを上げてください。



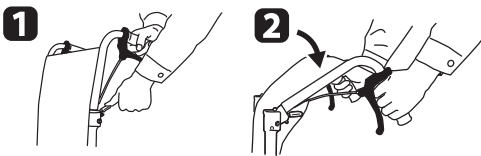
注意

- 折りたたみ時や、グリップのロックが解除されている状態のときに、折りたたんだグリップとパイプの間で手指を挟まないように注意してください。
- グリップの隙間に手指をいれないようにご注意ください。車いすやグリップが突然動きだした場合などにケガをするおそれがあります。

バックサポートの折りたたみかた・固定のしかた(オプション)

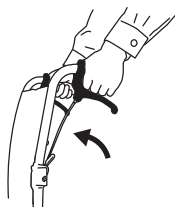
※NCT-MS と NCT-PRO の背折れつき仕様の場合のみ

折りたたみかた



手押しハンドルを握り、一方の手でバックサポート折りたたみレバーを下に押しながら、手押しハンドルを手前に引くように少し折り曲げます。反対側も同様の手順で少し折り曲げてください。続いて、左右同時に折りたたみます。

固定のしかた



手押しハンドルを握り、上方へ引き起こすように持ち上げてください。左右のスライドピンが「カチッ」とロックされたことを必ず確認してください。

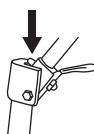


警告

車いすに乗る際は、完全にバックサポートが固定されている事を確認してから、座ってください。



注意

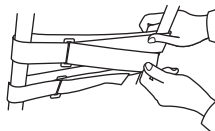


- 矢印の部分に手や指を置かないでください。
- 矢印の部分にバックサポートシートをはさみこまないように注意してください。

バックサポートの張り具合の調整のしかた

1 バックサポートシートをはずしてください。

2 任意にインナーベルトを緩めてしっかりと面ファスナーで貼りあわせて固定してください。



3 バックサポートシートをかぶせて完了です。



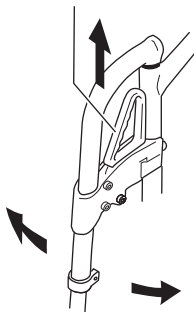
**注意
警告**

- 使用者が乗車した状態で調整する場合、ベルトは必ず一本ずつはずして調整してください。全てはずすと、乗車者が落下しケガをする恐れがあります。
- バックサポートの張り調整は、必ず駐車ブレーキをかけて行ってください。
- ベルトは 5 cm 程度たるませるのが限界です。それ以上たるませると、面ファスナーの効きが弱くなり、ベルトがはずれる可能性があります。

SW タイプのフット・レッグサポートの開閉のしかた・着脱のしかた

※NCT-MS SW / NCT-PRO SW のみ

スイングイン・アウト用レバー

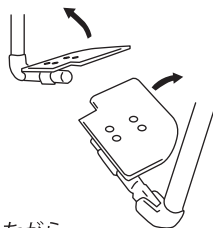


開閉のしかた・はずしかた

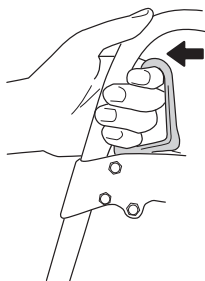
※乗車者の足をフットサポートから外した状態で操作を行ってください。

- スイングイン・アウト用レバーを握りながら、フット・レッグサポートを内側・外側へ回転させることで、フット・レッグサポートの開閉(スイングイン&スイングアウト)ができます。

※フットサポートプレートがあたって、内側に回転できない場合は、フットサポートプレートを跳ね上げてから操作をしてください。



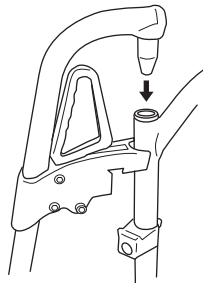
- スイングイン・アウト用レバーを握りながら、フット・レッグサポートを上方に引き上げると、フット・レッグサポートを本体からはずすことができます。



フット・レッグサポートの開閉・着脱操作は、フット・レッグサポートレバーを握りながら行います。

取付けかた

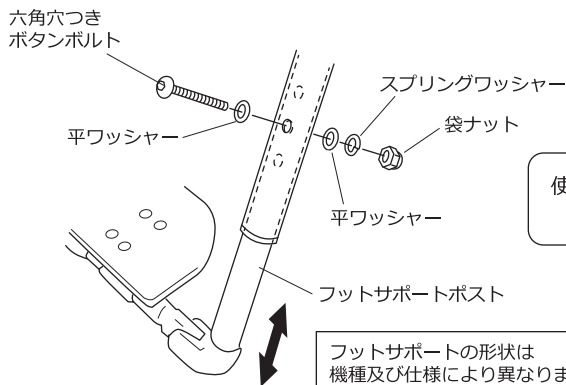
- ①フット・レッグサポートを外側に開いた状態で、フット・レッグサポートのインナーパイプをフット・レッグサポート受けパイプの穴に、上からまっすぐ差し込みます。



- ②スイングイン・アウト用レバーを握りながら、フット・レッグサポートがまっすぐになる位置まで、内側に回転させてください。
- ③フット・レッグサポートがまっすぐな正しい位置になったら、レバーから手を離してください。レバーが戻り、フット・レッグサポートがフレームに固定されていることを確認してください。(フット・レッグサポートが左右に動いたり、上方に振れたりしないことを確認してください。)

フットサポートの高さの調節のしかた

NCT-FS の場合



使用工具：六角レンチ 4 mm
スパナ 10mm

フットサポートポストの穴は 15 mm 間隔であいています。
フットサポートポストの穴位置を選んでレッグパイプに固定することで、
15 mm 単位でフットサポートの高さを変更できます。



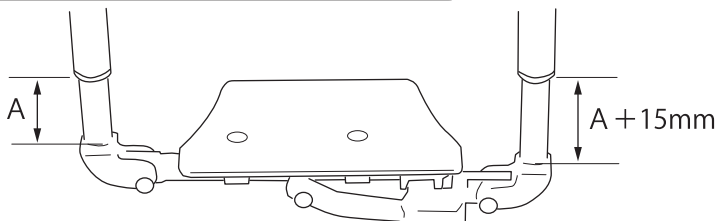
注意

- ボルト・ナットはしっかりと締めつけて固定してください。
- フットサポートを下げすぎると、段差やスロープ等でつまずくことがあります。
- 中折れ式のフットサポート仕様の場合及び、NCT-FS リジッドタイプの場合は、左右のフットサポートポストを同じ高さに設定してください。左右のフットサポートの高さが同一でない状態で使用すると、製品の破損につながるおそれがあります。



注意

NCT-FS 片折れ式フットサポートの場合



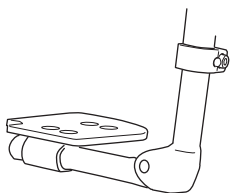
- 片折れ式フットサポート仕様の場合は、レッグパイプ下端から出ているフットサポートポストの長さについて、左側（搭乗者の左足側）が右側より 15 mm 長くなる位置で固定してください。上記を守らずに固定すると、製品の破損につながるおそれがあります。



各部の調節につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご相談・ご依頼ください。

フットサポートの高さの調節のしかた

NCT-VS / NCT-AS / NCT-MS / NCT-PRO SW の場合



調節用ボルト

使用工具：六角レンチ 4 mm

- フットサポートのポストを固定している調節用ボルトを 4 mmの六角レンチで緩めて、フットサポートの高さを合わせてから、調節用ボルトをしっかり締め付けます。
(極端に強く締めすぎると、締付けクランプ部品が破損する場合がありますのでご注意ください。)

フットサポートの形状は機種及び仕様により異なります。



注意

- 調節後はしっかりと調節用ボルトを締めて固定してからご使用ください。
(極端に強く締めすぎると、締付けクランプが破損する場合がありますのでご注意ください。)
- フットサポートを下げすぎると、段差やスロープ等でつまずくことがあります。
- 中折れ式のフットサポート仕様の場合及び、NCT-ASリジッドタイプの場合は、左右のフットサポートポストを同じ高さに設定してください。左右のフットサポートの高さが同一でない状態で使用すると、製品の破損につながるおそれがあります。



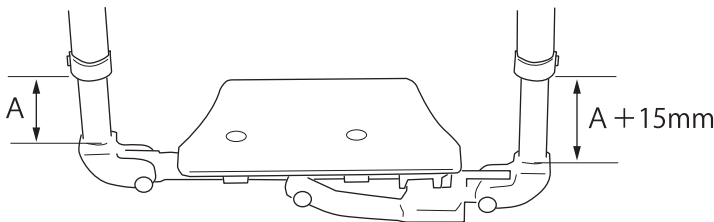
注意

片折れ式フットサポートの場合

車いす後側



車いす前側



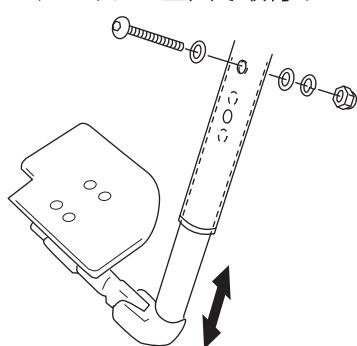
- 片折れ式フットサポート仕様の場合は、レッグパイプ下端から出ているフットサポートポストの長さについて、左側(搭乗者の左足側)が右側より 15 mm長くなる位置で固定してください。上記を守らずに固定すると、製品の破損につながるおそれがあります。



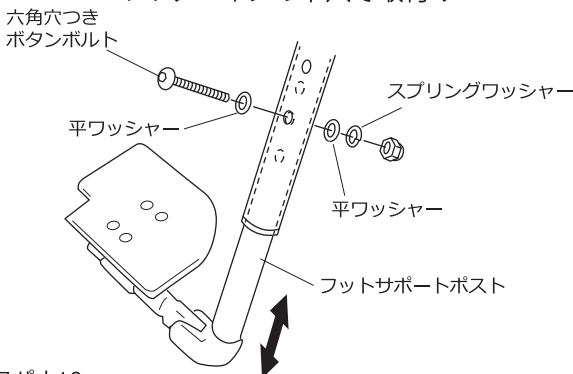
各部の調節につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご相談・ご依頼ください。

NCT-PRO UP / NCT-PRO Urban の場合

レッグパイプの上穴で取付け



レッグパイプの下穴で取付け



使用工具：六角レンチ 4mm / スパナ10mm

メインフレームのレッグパイプには、30mm間隔で片側に2カ所の穴があいています。フットサポートポストの穴は20mm間隔であっています。上穴取付けと下穴取付けを使い分け、フットサポートポストの穴位置を選んで固定することで、10mm単位でフットサポートの高さを変更できます。



注意

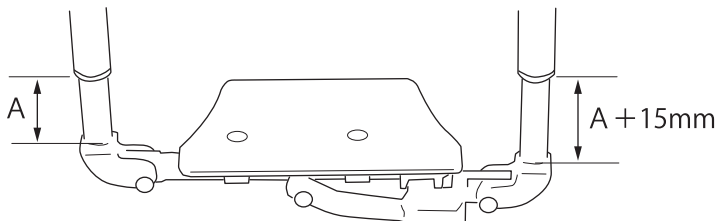
- ボルト・ナットはしっかりと締めつけて固定してください。
- フットサポートを下げすぎると、段差やスロープ等でつまずくことがあります。
- 中折れ式のフットサポート仕様の場合及び、A S-IIIリジッドタイプの場合は、左右のフットサポートポストを同じ高さに設定してください。左右のフットサポートの高さが同一でない状態で使用すると、製品の破損につながるおそれがあります。



注意

片折れ式フットサポートの場合

車いす後側
車いす前側



- 片折れ式フットサポート仕様の場合は、レッグパイプ下端から出ているフットサポートポストの長さについて、左側（搭乗者の左足側）が右側より15mm長くなる位置で固定してください。上記を守らずに固定すると、製品の破損につながるおそれがあります。



各部の調節につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご相談・ご依頼ください。

フットサポートプレート角度の調節のしかた

※パイプ式、プレート溶接式フットサポート等を除く

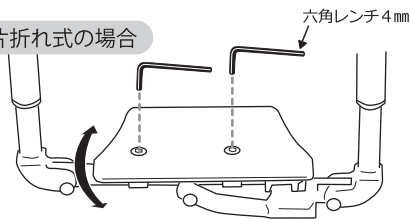
中折れ式・両側跳ね上げ式の場合



使用工具：六角レンチ 4 mm

- フットサポートプレート上の、車いす前方側のボルトを 4 mmの六角レンチで緩めると、フットサポートプレートの角度を調節することができます。角度を合わせてから、緩めたボルトをしっかりとめて、プレートの角度を固定します。
(極端に強く締めすぎると、締付けクランプ部品が破損する場合がありますのでご注意ください。)

片折れ式の場合



- フットサポートプレート上のボルトを 4 mmの六角レンチで緩めると、フットサポートプレートの角度を調節することができます。角度を合わせてから、緩めたボルトをしっかりとめて、プレートの角度を固定します。
(極端に強く締めすぎると、締付けクランプ部品が破損する場合がありますのでご注意ください。)

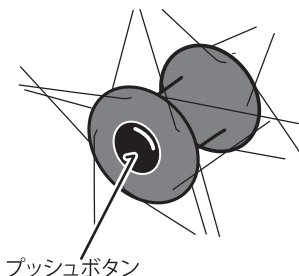


各部の調節につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご相談・ご依頼ください。

駆動輪のはずしかた・取り付けかた

※NCT-MS 固定軸駆動輪仕様 及び NCT-PRO を除く

はずしかた

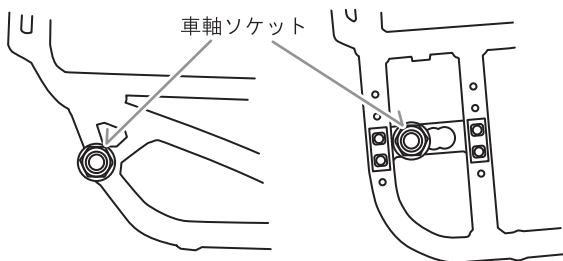


片方の手で車いすを少し傾けるように持ち上げて、もう一方の手で駆動輪のプッシュボタンを押したまま、駆動輪を引き抜きます。

取り付けかた



片方の手で車いすを少し傾けるように持ち上げて、もう一方の手で駆動輪のプッシュボタンを押したまま、駆動輪を車軸ソケットに差込みます。



※機種や仕様によりフレームの形状は異なります。

2 装着後、駆動輪が確実に固定されていて、本体から抜けないことを確認してください。



警告

使用前には、駆動輪が確実に装着されていて、本体から抜けないことを確認してください。



禁止

使用中は駆動輪のプッシュボタンを押さないでください。
使用中に駆動輪がはずれ、事故や製品の破損のおそれがあります。



駆動輪の着脱がスムーズにできないときは・・・

着脱しようとしている駆動輪に駐車ブレーキがかかっていますか？
駐車ブレーキがかかっている場合は、ブレーキを解除してから再度お試しください。

カーボンサイドガード(オプション)の取扱い



- 汚れの除去等の手入れには、メガネ用レンズ拭きのような、繊維の細かい布等を使用してください。また、アルコールやベンジン等の溶剤は使用しないでください。
- カーボンは吸湿すると強度が低下します。濡れた場合はすみやかに水分を拭きとってください。
- キズによっても、表面のクリア塗装がはがれます。できるだけキズがつかないように、大切に取扱ってください。
- カーボンは丈夫な素材ですが、大きな衝撃が加わった場合等には壊れてしまいます。取扱にはご注意ください。
- カーボンは電気を通す素材です。金属製のフレームと同様に、取扱にはご注意ください。
- カーボンの繊維が切れたり、割れたりしている場合は、使用を中止してください。ささくれが発生した場合、身体にささりケガをするおそれがあります。



カーボンサイドガード
(オプションです)

ウレタン素材には 寿命 があります

- クッション性に優れているウレタン素材は、使用頻度にかかわらず経年変化を起こし、割れ、ヒビ、崩れを起こし、破損するおそれがあります。
- 特に通気の悪い場所での長期間の保管は避けてください。
- 割れやヒビ、崩れ等の症状が発生した場合は使用を中止し、販売店に部品交換を依頼してください。



キャスト輪など

NCT-AS ショックアブソーバーシステムの取扱い方法

※NCT-AS Shock absorber のみ

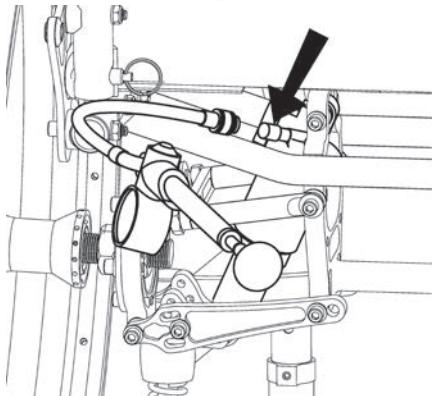
安全な状態でご使用いただくために、以下の事項に従いメンテナンスを実施してください。

- 1 か月に一度、空気圧を確認してください。
- 空気圧の調整には、必ず付属のポンプを使用してください。
- 空気圧の調整作業は、必ず車いすから降りた状態で行ってください。

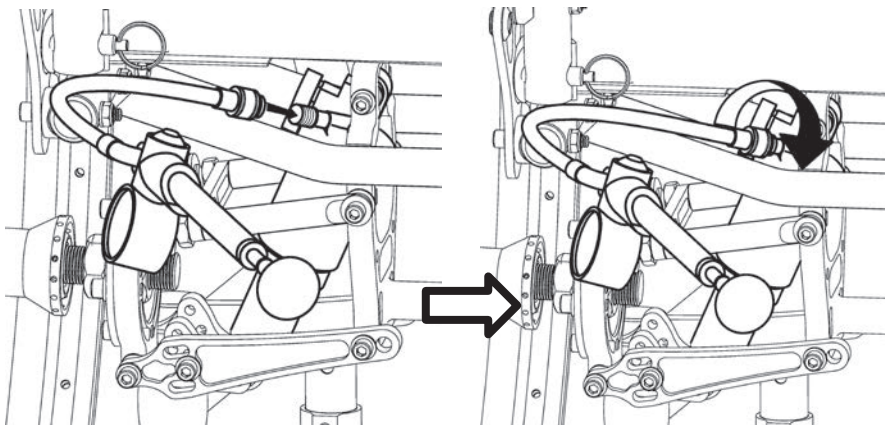


▶空気圧の調整方法

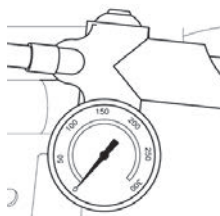
- 1** ショックユニットの空気バルブのキャップをはずします。



- 2** 付属のポンプをバルブに取付けます。バルブにポンプの口金をあてながら、口金のダイヤルを右方向に回転させます。おおよそ6回転で完全に固定できます。

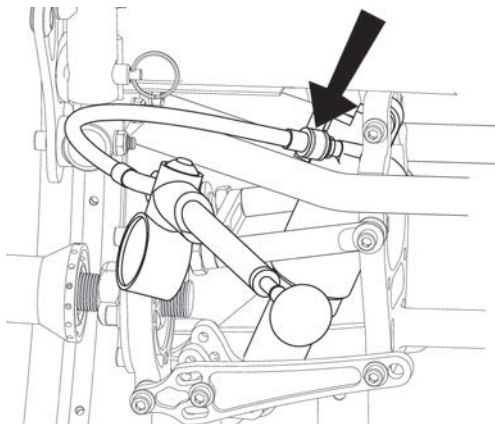


ポンプが確実にショックに接続されると、ポンプゲージが現在の空気圧を表示します。
※ショック内の空気圧が0の場合は、ポンプを接続した後も0を表示します。

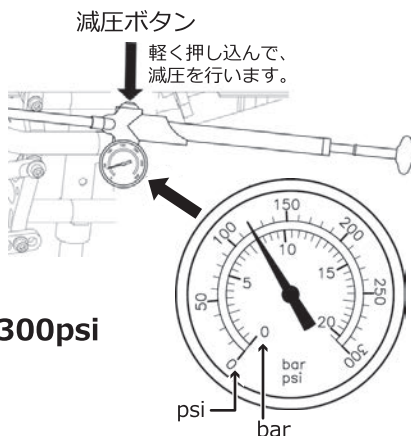
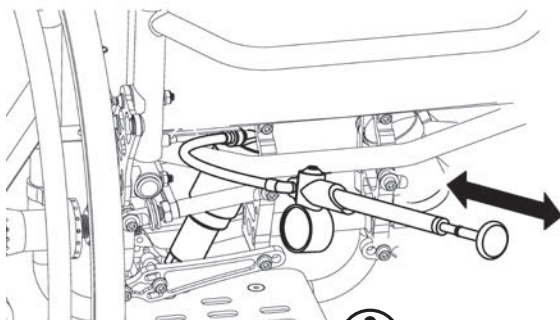


NCT-AS ショックアブソーバーシステムの取扱い方法 (続き)

- 3** ポンプを動かすと空気がショック内に送られます。ポンプを3回ほど操作してみて、急激に空気圧が上昇する場合や、空気圧がまったく上昇しない場合は、接続部の確認を再度行ってください。



- 4** ポンプを動かして空気圧の調整を行います。指定する空気圧よりもやや高めの空気圧を入れます。その後減圧ボタンを押して、指定の空気圧まで減圧します。下記の表を参考にして、指定の空気圧まで加圧してください。使用者様の好みで、下記表よりも±20%程度の範囲内で圧力を調整し、サスペンションの硬さを変更することができます。
※極端に空気圧を高くすると、サスペンションの効果が得られなくなるだけでなく、フレーム破損の原因となります。
※極端に空気圧を低くすると、サスペンションフレームがメインフレームと干渉し、フレーム破損の原因となります。



! 最大空気圧 : 300psi

▶推奨空気圧

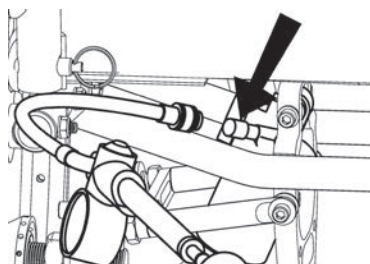
体重 (積載物含む)	80 lbs (36 kg)	110 lbs (50 kg)	140 lbs (64 kg)	170 lbs (77 kg)	200 lbs (90 kg)	230 lbs (105 kg)	250 lbs (114 kg)		
空気圧	35 psi	40psi	50psi	60psi	70psi	80psi	90psi	110 psi	130psi



必ず左右のショックの空気圧が同じになるように調整を行ってください。

※lbs・・・ポンド

- 5** ポンプをショックから取り外し、キャップを取り付けます。
※ポンプを取り外す際は口金のダイヤルを左に回転させます。



使用前点検 (必ず行ってください)

- 介助ブレーキ (オプション) がしっかり効くかどうかご確認ください。
- 駐車ブレーキがしっかり効くかどうかご確認ください。
- 介助ブレーキ (オプション) のワイヤーの張り具合が適当かどうか点検し、正常に動作するかどうかご確認ください。
- ネジ・ボルトのゆるみがないか、フレームのガタつきがひどくないかご確認ください。
- シート類に亀裂や破れがないかご確認ください。
- バックサポートの張り調整ベルトがしっかりと固定されていることを確認してください。
- 駆動輪タイヤの空気圧は適切かどうかご確認ください。(不足している場合は補充してください)
- 駆動輪タイヤの溝がなくなりかけていないか、タイヤに亀裂がないか、チューブがパンクしていないかご確認ください。
- 車輪のガタ・緩み・曲がり等がないかご確認ください。
- 前輪キャスタ輪及びキャスタフォークにガタつきや変形、亀裂等がないかご確認ください。
- 着脱式車輪仕様の場合は、駆動輪が確実に装着されていて、本体から抜けないことを確認してください。
- 各部パーツの変形、破損がないかご確認ください。



警告

製品に異常がある場合は使用を中止し、すみやかに販売店に修理・部品交換・調節をご依頼ください。

メンテナンス

- ボルトの緩み、フレームのガタ、タイヤの空気圧の減少など目視や簡単に手で触って分かるようなチェックは、日常的に行ってください。
- 各部のメンテナンス (調節・補修・修理・部品交換等) はお買い上げの販売店にご依頼ください。

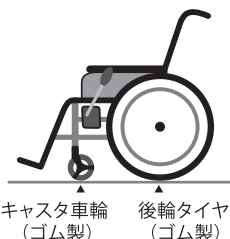
保管方法など

- インナーシートやレッグベルトが汚れた場合は中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取り、その後水で濡らした布で洗剤をきれいに拭き取ってください。汚れを取ったあとは、完全に乾燥させてからご使用ください。生乾きでの使用はカビや異臭の原因となります。
- 直射日光の当たる場所や高温多湿な場所での長期保管は避けてください。



床材へのゴム汚染についてのご注意

- 塩化ビニール製のタイルやクッションフロア等は、ゴム製品が接することで、床材の成分とゴムの化学反応により、ゴム汚染とよばれる床の変色が発生する場合があります。
- ゴム製キャスタ車輪やゴム製後輪タイヤを装着している車いすを塩化ビニール製の床で使用する場合、床に直接ゴム部分が触れないように、カーペットを敷くなどの対策をとってください。
- 床材へのゴム汚染の発生は一般的な事象であり、製品の瑕疵(かし)に起因するものではありません。





注意・警告

- 各部のガタつきやネジのゆるみ、タイヤのすりへり、その他の不具合により、思わぬ事故につながる場合があります。定期的に取り扱い業者のチェックを受け、不具合がないか確かめてください。
- 使用者の体調が著しく低下しているときは、十分に注意して使用してください。
- からだに合わない状態での使用はしないでください。
- バックサポートの張り調整が不適切な状態での使用はしないでください。
- 各部の調整・調節を行うときは、必ず駐車ブレーキをかけた状態で行ってください。
- 走行時には地面に凹凸や障害物がないか充分に注意してください。走行中、各部に凹凸や障害物が引っかかると、転倒や製品の破損のおそれがあります。
- 車輪や各部の隙間に手を入れないでください。各部が動いたり、でっばりに手を触れたりすると、ケガをするおそれがあります。
- 車いすはバランスをくずして転倒することがあります。乗車者、介助者とも、車いすは転倒しないように十分に気をつけて使用してください。悪路や坂道、傾斜路などでは特に注意してください。
- 倒れかかるような座り方や、身を乗り出すような座り方はしないでください。バランスをくずして転倒することがあります。
- 搭乗中に大きな前かがみの姿勢をとらないでください。(例：足下や前方にあるものを触ろうとしたり、拾おうとして、前かがみの姿勢にならないようにご注意ください)。バランスをくずして車いす及び乗車者が前方に転倒するおそれがあります。
- エスカレーター・オートスロープ・動く歩道での使用はしないでください。転落、転倒による事故のおそれがあります。
- 公共交通機関で使用する際は、係員の指示に従い、安全に搭乗してください。
- 踏切りを横断の際は、車輪・キャスタ輪がレールの溝にはまらないよう、介助者のサポートを受けながら、十分に注意してください。
- 手押しハンドルやフレームなどに手荷物等を掛けないでください。荷物等が各部に当たり誤動作をしたり、バランスをくずして転倒する恐れがあります。
- フットサポートの上に立たないでください。製品の破損だけでなく、転倒による事故のおそれがあります。
- 使用中にフットサポートの裏側にキズがつき、鋭利な状態になっていることがあります。車いすへの乗り降りの際には、跳ね上げたフットサポートの裏側で、搭乗者の脚部や介助者の手をケガしないう、十分にご注意ください。
- 持ち運びの際は、メインフレーム以外を持たないでください。(アームサポートやフットサポート、シート、車輪等を持って運ぶと、製品の破損や事故につながるおそれがあります。)
- 坂道での駐車はしないでください。やむを得ず駐車する場合は2輪以上に車止めをしてください。
- 本書記載以外の使用はしないでください。
- 踏台や脚立・歩行器のかわりに使用しないでください。
- 二人乗りなど多人数での使用はしないでください。
- フレームの折れ、曲がり、シート・ベルト類の破損など壊れた状態での使用はしないでください。(使用を中止し、すみやかに販売店へ修理、部品交換をご依頼ください。)
- 乗車者・介助者とも、車いす使用時には靴をはいてください。はだしで車いすを使用しないでください。思わぬケガのおそれがあります。
- 体重が製品の耐荷重を超える方の使用はしないでください。
- 車いすからはなれるときや、車いすに乗り降りするときは、必ず左右の駐車ブレーキをかけて、駆動輪を確実にロックさせてください。
- 周辺に小さなお子様がいるときは、指や手足を挟むなどして、ケガをするおそれがありますので十分にご注意ください。
- 製品をゆすったり、踏んだりなどの乱暴な取扱いをしたり、落としたり、たたいたりなどの強い力や衝撃を与えないでください。製品が破損することがあります。
- 水にぬれた場合、そのままにしておくとう製品に錆びやカビが出る場合があります。ぬれた場合は乾いた布ですみやかに拭きとってください。水中での使用はしないでください。
- 気温の差の激しい場所や異常に高温な場所(車中など)に製品を放置しないでください。フレームが痛むばかりでなく、熱くなったフレームで火傷をしたり、高温になったシートに座ることで体調に悪影響を与えることがあります。
- 改造や分解はしないでください。
- 製品の改良・改善により、詳細において本書の内容と異なる場合があります。不明な事柄につきましては、販売店までお問合せください。

保証規定

I. 保証の範囲

1. 保証期間中に品質の不完全に基づく故障を生じた場合には下記の保証書により無料で修理いたします。
2. 保証期間はお買い上げ後 1 年間です。
3. 但し、次の場合は保証期間中でも有料になります。
 - (a) 取扱い過誤による故障。
 - (b) 製品に改造を加えた場合の故障。※純正品以外の部品を使用した場合も含みます。
 - (c) 天災、地変等による故障ならびに損傷。
 - (d) 消耗部品、タイヤなど。
 - (e) 保証書にお買い上げ店名の記載、捺印のない場合。
 - (f) 保証書のご提示がない場合。
4. 以上の保証は本製品を日本国内に設置した場合に限りです。
5. この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

II. サービスのご用命

保証期間中、万一故障が生じた場合はお買い上げの販売店へ保証書を添えてお申し出ください。

III. ご注意

保証書は再発行しませんので大切に保管してください。

品質保証書

本商品については上記記載の「保証規定」により正常な使用状態において故障が生じた場合に限りお買い上げ日より「1 年間」無償にて修理いたします。

機 種			
お客さま	ご住所	〒	
	(〒) 氏名	〒	
お買い上げ	月	保証書	年
販 売 店			
製 造 元			

日進医療器株式会社

〒481-8681 愛知県北名古屋市沖村権現 3 5 番地の 2
TEL <0568>21-0635(代) FAX <0568>23-2787

日進医療器株式会社

本 社 〒481-8681 愛知県北名古屋市沖村権現 3 5 番地の 2
TEL <0568>21-0635(代) FAX <0568>23-2787
東京営業所 〒112-0011 東京都文京区千石 2 丁目 2 - 1
TEL <03>3943-5200(代) FAX <03>3943-5222
大阪営業所 〒533-0013 大阪府大阪市東淀川区豊里 6 - 1 6 - 1 0
TEL <06>6323-8265(代) FAX <06>6326-2554
九州営業所 〒812-0876 福岡県福岡市博多区昭南町 2 丁目 3 - 8
TEL <092>513-5036(代) FAX <092>513-5038

製品の廃棄方法

ご不用となった製品を処分される場合の廃棄方法につきましては、お住まいの自治体のルールに従ってください。